

## 壁紙施工要領書 - ガラスフィルム -

### ■施工に必要な道具類

- |        |                   |         |
|--------|-------------------|---------|
| ①スプレー  | ②ゴムスキージー（又はウレタン製） | ③スクレイパー |
| ④ワイパー  | ⑤カッター             | ⑥スケール   |
| ⑦粘着テープ | ⑧ペーパータオル          | ⑨メジャー   |
|        |                   | ⑩中性洗剤   |

※そのほか広範囲の作業をする場合、散水用に園芸用の手押しポンプ（圧縮タイプ）があると便利です。

### ■ガラス面の清掃をする

- (1) 中性洗剤が入った水溶液（台所で使用している洗剤液を水 1.8L に対し 5、6 滴程度加えたもの、以下水溶液と省略）を使用し、スクレイパーで窓ガラス面をよく洗ってください。（窓枠も同様に洗ってください。）

中性洗剤が入った水溶液を使用するのは、

- ①水に中性洗剤が少量入ると水の膜が薄く伸びやすくなる。
- ②ガラスとフィルムの糊面に水溶液があるとすべりやすく、またはがしやすくなるため位置決めが楽になる。
- ③ガラス面との密着性が良くなるため空気が入りにくくなる、というように施工性、仕上がりがよくなるためです。

中性洗剤の量が少なすぎると水分、気泡の抜けが悪くなり、多すぎると泡立ったりフィルムのガラス面への納まりが悪くなります。（中性洗剤の量は洗剤の種類により若干異なります）

- (2) 塗料その他固形物が付着している場合、カッター等で除去するようにしてください。  
※ガラスフィルムは内貼り用ですので、必ず室内面から貼るようにしてください。（食器棚や本棚は外側に貼るようにしてください。）

### ■ガラスフィルムを裁断する

- ①先に窓用フィルムを窓の寸法に合わせてカットしておく方法と、やや大きめにカットして貼り付けてから窓ガラスのコーナーに沿って切る方法と二通りあります。

②ガラスフィルムを貼る窓ガラスの寸法をメジャー等で測ります。

③ガラスフィルムを計測した寸法をもとに裁断します。

※柄物など耳がついている場合は、耳部を裁断しておきます。

## ■バックフィルム（セパレーター）をはがす

---

①ガラスフィルムを折ったりしてキズを付けないようにしてください。（修復はできません。）

②ガラスフィルムは裏面にバックフィルムを貼り合わせてありますので、コーナーから剥がしてください。剥がしにくい場合は、セロハンテープを両面につけて別々に引っ張ると容易に剥がれます。

※なるべく施工するガラス面の近くで剥がすようにしてください。

③その際、フィルムの糊面に水溶液を十分にスプレーしながらバックフィルムをはがしてください。

（水溶液は、バックフィルムをおよそ50cmはがすごとにスプレーしてください。）

④バックフィルムを剥がすには、置いて行なうよりも二人一組になって、フィルムの上端を持って上から下へ剥がす方が作業しやすくなります。

⑤バックフィルムを剥がす際、静電気による埃やごみの付着や他のものへの接触に注意してください。

※万一くっついてしまった場合は、水溶液をスプレーして、そっと剥がしてください。

## ■ガラスフィルムを貼る

---

張り方には、先に窓用フィルムを窓の寸法に合わせて切っておく方法と、やや大きめに切って張り付けてから窓ガラスのコーナーに沿って切る方法と二通りあります。いずれの場合も仕上がりが窓枠より、2～3mm内側になることを心得ておいてください。（エア抜き、水抜きをよくするためです）順序は下記の通り行います。

(1)張るガラス面にたっぷり水溶液をスプレーします。

(2)バックフィルムをはがしたガラスフィルムの接着剤面にも水溶液を散布します。

(3)ガラスフィルムの角をつまんで濡れたガラス面にあててください。（位置決め）

ガラスフィルムとガラス面の間にたまる気泡は、なるべく少なくしておいた方が施工しやすくなります。
---

## ■なで付け、予備仕上げ

---

①ガラス面にあてたガラスフィルムの表面にも、クリーニングに使用した水溶液を散布してください。

②最上部では左右にゆっくりと水平に引いてください。そのあと上部から下向き（縦方向）になで付けるようにしてください。

- ③ガラスフィルムの表面に、時々水溶液をかけてスキージーを滑りよくしながら、ガラスフィルムとガラス面の間の気泡または水分を完全に抜いてください。(シワの寄らないように注意してください。)

## ■ジョイント

---

- ①ジョイントには、重ね裁ち（ダブルカット）と突き付けの二通りの方法があります。
- ②重ね裁ちの場合は、ガラスフィルムを3～5cm程度重ねて張り合わせ、その中心部分を定規でカットします。(カッターの刃は直角に入れるようにしてください。) 続いて不要部分を取り除いてください。
- ※その際、フィルムを張り起こすこととなりますので、ジョイント部分に水溶液をスプレーして行うと作業がしやすくなります。
- ③ジョイント部分は、ガラスフィルムがびたりと重なるよう強く押し付けながら、水や空気を下へ送るようにしてなで付けます。
- ④重ね裁ちの場合、ガラス面を傷つけないよう注意してください。
- ⑤アルミ蒸着タイプ(LY-7861・7862など)は色違いが出る場合がありますので、リバース施工での対応をおすすめします。
- ⑥横ジョイントやはぎ合わせは色違いの元になりますので行わないでください。

## ■仕上げ

---

- ①あらかじめガラスフィルムをカットしてある場合は、スキージーをペーパータオルか柔らかい布で包んで、ガラスフィルムのコーナーに圧着しながら再度水分をしぼり出してください。

何度も擦ると端部に貯まった水がフィルムとガラスの間に逆流し、ゴミが巻き込みやすくなります。

- ②余分にガラスフィルムを切つてあてた場合は、三角定規を窓サッシコーナー部に沿って当て、直角にカッターの刃をたててガラスフィルムを真直にカットしてください。
- ③この場合も、窓サッシコーナーより、2～3mmあけて切ってください。

食器棚やショーケースなどに張る場合は1mm程にしてください。

- ④張り終わりましたら、気泡が残っているかどうかを確認してから、ガラスフィルムの表面を軽くペーパータオルか柔らかい布に水溶液を少量散布して拭いてください。
- ⑤隅の水抜きは、三角定規にペーパータオルを二枚重ねて巻いて行ないます。
- ⑥施工直後、フィルム面がわずかに残った水分により白濁することがありますが、3～7日経過し水分が蒸発し抜けることにより消えます。(ただし、施工環境により日数は変わります。)
- ⑦施工後24時間はガラスフィルムにふれない様にしてください。

## ■熱割れについて

---

太陽光がガラスに直射した時、ガラス面の一部分に何かの影がかかったりする場合、ガラスにひびが入る場合があります。この事象を一般に「熱割れ」と呼んでいます。

これは、ガラス面に温度ムラが生じ、熱膨張の差からガラスに歪みがかかり割れるものです。すなわち、ガラスにかかる熱応力が個々のガラスの許容熱応力をオーバーした時、熱割れを生じさせます。普通、板ガラスに比べ、シルバーや着色タイプのフィルムを貼ると熱吸収が大のため、ガラス温度は上昇し易くなります。

このため、許容熱応力の小さい網入りガラスや、熱吸収の大きい熱線吸収ガラスへの日照調整タイプのフィルム施工は、注意が必要です。

## ■ガラスフィルムを張る場合注意を要するガラス

---

- ・網入りガラス →網（鉄線）とガラスの温度差によりガラスが割れるおそれがあります。
- ・型板ガラス →水滴や気泡が発生するおそれがあります。
- ・すり板ガラス →水滴や気泡が発生するおそれがあります。
- ・有機ガラス →ガスの自然発生による気泡が発生するおそれがあります。
- ・厚みのある板ガラス→エッジ部分のクリーンカットがしにくく、温度差が出やすいためガラスが割れるおそれがあります。
- ・熱線吸収板ガラス →上記参照。
- ・古いガラス →ガラスの研磨がなされていない場合があり、気泡が発生するおそれがあります。

## ガラスフィルムのリフォーム・メンテナンス

### ■ガラスフィルムのメンテナンス

---

- ①ガラスフィルムの施工後一週間ぐらいは掃除をしないでください。
- ②通常の汚れは、濡れた雑巾またはゴムスqueegeeなどで拭き取るようにしてください。
- ④油汚れなど取りにくいものは、中性洗剤または市販のガラス洗剤を使用してください。  
(研磨タイプの洗剤、強アルカリ液、特殊な薬品類、溶剤系などは使用しないでください。)
- ④表面を拭く場合、一方向のみ拭くようにしてください。
- ⑤傷がつきやすい硬いもの（剛毛ブラシなど）でガラスフィルム表面をこすらないようにしてください。
- ⑥ガラスフィルム表面に粘着テープ、ステッカー等は使用しないでください。

### ■ガラスフィルムの剥がし方

---

(天気がよい場合)

- (1) ガラスフィルムの上から水を吹きつけたあと、新聞紙を貼り付けます。
- (2) その上から再び水をたっぷり吹きつけて約1時間放置します。
- (3) カッターを使い約10cm間隔でガラスフィルムに切れ目を入れます。(この時ガラスに傷をつけないように注意してください。)
- (4) ガラス面に対し、直角に近い角度でフィルムを剥がします。
- (5) 糊がガラス面に残った場合は、布に中性洗剤をつけてこすり落とすか、シンナー等を使用して拭き取ってください。

(雨天の場合)

- (1) カッターを使い約10cm間隔でガラスフィルムに切れ目を入れます。(この時ガラスに傷をつけないように注意してください。)
- (2) ガラス面に対し、直角に近い角度でフィルムを剥がします。

雨天で湿度が高い場合は、好天時のように水を吹きつけたり含ませたりする必要はありません。しかし小雨程度の時は、念のため天気がよい場合の方法で対処した方が無難です。